

試験場で生産したスーパー和牛の産子について

栃木県では、スーパー和牛整備事業として全国の繁殖雌牛優良産地から極めて能力の高い肉用繁殖牛（スーパー和牛）を平成8年～10年度に12頭導入し、優良受精卵を県内和牛生産農家に供給して、県内和牛繁殖基盤の資質向上を進めています。畜産試験場では、現在、このスーパー和牛から受精卵を採取、凍結して実際に配付をする業務を行っています。平成9年度から現在までに528個（平成14年度末現在）が県内和牛生産農家に配付され、すでに118頭の産子（平成14年度現在）が生産されています。

ところで、畜産試験場のスーパー和牛の採卵は、通常分娩後3～4回の採卵を実施し、その後人工授精で通常妊娠、分娩させてから採卵を行うといったサイクルで行っているため試験場内でもスーパー和牛産子が生産されます。現在、これらの産子の父親は主に「北国7の8」「美津福」「福栄」といった評価の高い種雄牛を供用しており、このうち去勢牛については、矢板市場に出荷して「とちぎ和牛」生産の一翼をになうとともに、一部は試験場で肥育を行い、母牛の産肉能力などの調査試験を実施しています。また、雌牛については現在20頭以上の産子牛を場内に保留をして、将来のスーパー和牛後継牛の候補として育成を行っています。

最近、スーパー和牛産子肥育牛が食肉市場に出荷され、特に肉質ついて高い評価を受け、その能力が実証されつつあります。その結果、スーパー和牛の受精卵についても、配付希望が多くなっていますが、12頭からの採卵では、なかなか需要を満すだけの採卵個数を得ることは困難です。そこで畜産試験場では、今後これらの要望に対応するためには、場内で育成しているスーパー和牛後継候補牛の活用が必要と考えております。このためには、後継候補牛の発育状況調査や、これらの産子での場内肥育等を行い、それに基づき後継牛の能力把握と選抜を実施することとします。その結果、県内繁殖雌牛牛群への高い改良能力が見込まれた雌牛については、ドナー牛としての利用も可能と思われます。今後、生産者や関係団体の方々の御意見等をふまえて、後継候補牛の有効な活用方法について検討していこうと考えております。



（スーパー和牛）

（肉牛研究室 川田智弘）